

付 章 滋賀県下出土の石臼

ここでは県内の遺跡で発見された石臼について紹介してみたい。

ただしここでは、下臼に受け皿が付いた、いわゆる茶臼も含めて取り上げた。遺跡から出土する茶臼には、あとで述べる新庄城遺跡で、茶道具とみられる遺物とともに出土した資料のように、茶の湯に使われたと判断できるものもあるが、出土状況や目の粗さなどから、そうと判断できないものもある。例えば、表具師が使う糊臼としての用途も考えられるし、石臼と同様に穀物等の粉碎に利用された可能性もあるからである。⁴³

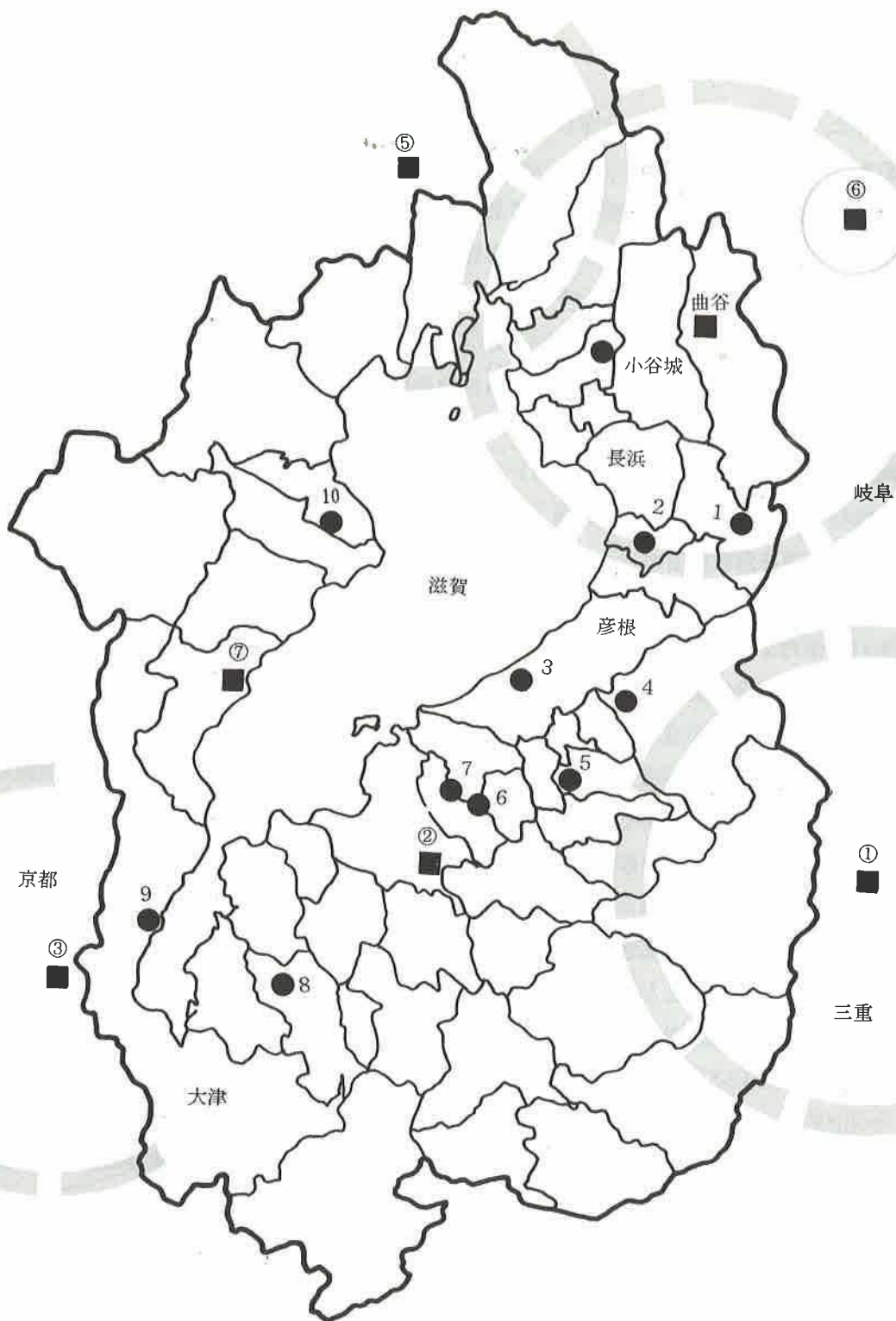
石臼生産地 出土石臼をみるまえに、県下の遺跡に石臼を供給した可能性がある、曲谷以外の石臼生産地を、県内と周辺地域に限って簡単に紹介したい。石臼の生産が、専門の石屋による大量生産になったのは江戸時代末期以降で、曲谷やこれから述べる三重県の石樽などは代表的な大量生産地である。それ以前は、良質の石材がある地域で農閑期に生産するといった小規模な産地が中心であったと考えられる。その中でも、曲谷は浅井氏の小谷城に石臼を供給するなど、中世にあっても知られた石臼生産地であったと思われる。

①石樽いしづれ（三重県員弁郡大安町）

鈴鹿山中の石樽峠をはさんで滋賀県神崎郡永源寺町に隣接している。宇賀川に産する花崗岩を石臼・石仏・灯籠・鳥居などに加工した。豊臣秀吉の大坂築城に加わった東海・関東地方の石工が、石樽峠や八風峠を越えた際に良質の花崗岩を見つけ、土地の人に技術を教えたのがはじまりとされている。⁴⁵ 大安町郷土資料館で見せていただいた2点は、直径30cmの竹たが締め式のもので、目は8分画4溝式であった。供給口が丸いので曲谷臼との区別は可能である。三重県北部、岐阜県南部、滋賀県南部に分布しているという。⁴⁶

②岩倉・長福寺（滋賀県近江八幡市）

湖東の近江八幡市と八日市市の境にある岩倉山から採れる良質の花崗岩を切りだし、従来から石臼づくりをおこなっていた。ここには、天正十一年（1583）を最古とする石工文書がのこされていて、豊臣秀吉の大坂築城などに関わりをもっていたことがわかる。臼についても、万治三年（1660）等の値段についての記録がある。また、曲谷石工との交流を物語る文書ものこっているという。集落に隣接する西山墓地で、つくりかけの石臼を見たという情報を得たが、現地で確認できなかった。しかし、墓地や山すそに石切りででたチップが散乱しており、中には本編で石臼用石材として取り上げたものに似た石材が数点みられた。また、妙感寺墓地には露頭した岩塊があり、ヤ穴が縦横に打たれている。⁴⁷ 岩倉の



第40図 掲載遺跡位置図(■ 生産地 ● 遺跡)

石臼は、湖東地方を中心に分布していると思われる。

③北白川（京都府京都市）

比叡山麓の北白川付近に産する白川石と呼ばれる黒雲母花崗岩を使って、石臼づくりがおこなわれていた。上臼の側面に彫った穴に、L字形の挽き木を打ち込んだ横打ち込み式の臼で、供給口が丸い。京都を中心に分布している。⁴⁸

④越前（福井県足羽郡美山町）

越前の臼は美山町に産する小和清水石（砂岩）が中心であるが、笏谷石（凝灰岩）のものもある。小和清水では建築石材や燈籠、石臼などが作られていた。一乗谷朝倉氏遺跡で、両者の石臼や茶臼が多量に出土している。滋賀県北部にも入り込んでいるようである。臼は横打ち込み式で、供給口が四角、直径一尺弱、上臼のくぼみが深いなどの特徴がある。⁴⁹

⑤疋田（福井県敦賀市）

福井県と滋賀県の県境に近く、赤みがかった花崗岩製の臼である。1本の竹たが締めで、上臼上面のくぼみが浅く、上縁が角ばっている。⁵⁰

⑥西津汲（岐阜県揖斐郡久瀬村）

曲谷のある姉川上流とは、山をはさんで背中合わせの位置にあり、峠で結ばれている。三田倉谷の花崗岩を利用して、曲谷出身の利右エ門がはじめたと伝えられている。おそらく江戸時代末頃と思われる。形式は曲谷臼と同じで、久瀬村を中心に分布している。⁵¹

⑦南小松（滋賀県滋賀郡志賀町）

比良山系の花崗岩を利用して、燈籠・石仏・鳥居・石臼などを生産していた。技術は、奈良時代に朝鮮半島から渡来した一族がはじめたと伝えられている。昭和初期の最盛期には南小松 100戸のほとんどが石細工に関わっていたという。⁵²

以上の7例を確認した。このうち⑤～⑦については、時代が限られていたり、大量生産地に隣接している小規模な生産地といえるのではないだろうか。

県下出土の石臼 管見に触れた県内の石臼を集成したところ、表9一覧表のとおり11遺跡46例が見つかった。遺跡の内訳は、城館跡 8・寺院跡 1・集落跡 1・近世墓 1で、城館跡が最も多い。

このうち敏満寺遺跡は、本来寺院遺跡であるが、発掘された地区が中世城郭遺構ととらえられていることから、ここでは城館跡に含めた。⁵³ また、1遺跡からの出土量としては、妙楽寺遺跡が19点と半数近くを占める。以下、湖北・湖東・湖南・湖西の順にみていきたい。なお、小谷城については、第3章3節で詳細に検討したので省略する。

1. 宝持坊遺跡（坂田郡山東町清滝^{ほうじぼういせき}）

京極氏信が創建した徳源院を含む清滝寺遺跡の北側にある。弘仁年間（810～824）に開かれたという真言宗豊山派の宝持院に付随する坊跡とされる。昭和六一年の調査で、宝持院境内の北東隅に設定されたトレンチ1の整地層から石臼が出土している。測定値が記載されていないため、写真図版から判断するほかないが、下臼の4分の1片で、おそらく石材は花崗岩であろう。トレンチ4から出土している五輪塔火輪が、風化のはげしい曲谷石の特徴を持っていることや曲谷産石造物の分布圏と考えられることから、曲谷臼の可能性は高い。近世に属す。⁵⁴

2. 顔戸山砦遺跡（坂田郡近江町顔戸^{こうどやまとりでいせき}）

日撫山の頂上から南西に郭がならぶ。天野川をはさんで、南に戦国期に北近江と南近江の国境をなした地頭山や太尾山が至近距離にある。おそらく、日撫山麓に館をもつ土豪たちが、北方にもにらみがきく当所に砦を構えたものと考えられている。平成五年に、山頂部から茶臼の上臼片が1点採集されている。形態は推径は約19.5cm、このっている部分の高さ約11.3cmで8分画と思われる。上面はふちが全て欠けているが、滑らかにくぼみがゆるやかに傾斜している。奥行き約2.7cmの挽き手を差し込む穴が一部のこっていて、穴の入口周辺が出っぱっており、飾りが付いていたものと考えられる。粒の細かい石質をもつ。⁵⁵本遺跡は砦であり、軍事的緊張時のみ利用されたものと思われるが、天目茶碗なども出土していることから、眺望を利用した茶の湯の施設があったのかもしれない。

3. 妙楽寺遺跡（彦根市日夏町^{みょうらくじいせき}）

荒神山の北東山麓に所在する弥生時代から中世にかけての複合遺跡である。15～16世紀は石組水路・道路等で区画された町並みを形成し、区画内はさらに小溝や堀等により小区割りし、屋敷地としている。中世城館や琵琶湖岸に展開する中世村落の様子を知ることができる。昭和六〇年の調査で花崗岩製の石臼が8点出土している。つづく昭和六二年度には、茶臼が1点と花崗岩製石臼が9点、石材不明の石臼が1点出土している。茶臼の出土は、青磁茶碗などの茶道具のまとまった出土とともに、この集落で茶の湯文化が花開いていたことが推測されている。また、本遺跡が六角氏の軍事的前線地であり、八坂港を背後にもつ商業的要地であることを背景に、かなりの勢力をもっていた集落であったと推測されているが、この多量の石臼の出土によってもそのことがうかがえる。⁵⁶出土した石臼のほとんどは、瀬戸美濃窯大窯編年Ⅰ・Ⅱ期（1490年～1570年）に属している。直径は26cm以上～35cmで、30cm～32cmが中心のようである。報告書には6点の実測図が掲載されていて、これを見るといずれも8分画の臼で、上臼の供給口が丸く、上面のくぼみは3.5～4cmと深い。⁵⁷

4. 敏満寺遺跡 (犬上郡多賀町敏満寺)

9世紀末から10世紀前半に創建された寺院で、青龍山麓にある今の胡宮神社付近に本堂があり、ここを中心に多くの塔堂が建ち並んでいたといわれている。調査されたのは、西谷とよばれる舌状台地北西部で、元龜三年（1572）の織田信長来攻に備えて、寺院施設の一角を城郭として築いたものであるとの評価がなされている。昭和六一年度に井戸跡から、井筒の石材として二次利用されたとと思われる茶臼と石臼が1点ずつ出土している。茶臼は高台と受け皿の付いた下臼である。石臼は、粗い花崗岩の下臼で、直径は約30cmである。芯棒穴は中央でいったんせまくなっている。出土した土師器から16世紀中葉のものと考えられる⁵⁸。

5. 島川遺跡 (愛知郡秦荘町島川)

島川城は、15世紀頃より存在したと伝えられる中世城館（平城）である。文献資料に乏しく、不明なところが多い。石臼は、昭和六一年度の調査で小溝埋土中より出土している。時期は中世から近世はじめのものである。写真でみるかぎり上臼の小片で、上面のくぼみは上下に明瞭な段をもつ皿状で、ふちは角ばっている。石材は花崗岩と思われる⁵⁹。

6. 観音寺城跡 (蒲生郡安土町石寺)

近江守護として、鎌倉から戦国時代末にいたるまで湖国に君臨した、佐々木六角氏の居城である。城郭の成立は南北朝期からであり、永禄十一年（1568）に織田信長の攻撃により開城した。山頂は物見台とし、本丸・平井丸・池田丸を稜線上に配し、今日観音正寺境内となっている曲輪を中腹として、数百余りの曲輪を南側斜面に構築している。守護所としての屋形は山麓にあった。昭和四四～四五年度に発掘調査がおこなわれ、本丸の屋敷跡中央で石臼と茶臼が、池田丸の屋敷跡北東隅で石臼が出土している。本丸の茶臼は臼面の直径17.6cmの安山岩製のもので、石臼は直径30cmの安山岩のものという。これ以上の情報は報告書からは読みとれない。安山岩製石臼の産地については滋賀県周辺でみあたらない。

7. 安土城跡 (滋賀県安土町下豊浦)

織田信長が安土山に築城をはじめたのは天正四年（1576）で、天正七年に完成したという。しかし本能寺の変を契機にした戦乱で、天正十年（1582）六月、放火により落城した。安土城は壮大な天主閣をもち、石垣を多用した平山城で、城郭と町とが一体となった近世城郭の先駆となるものである。平成元年度からおこなわれている伝羽柴秀吉邸跡等の調査で、石臼が5点と茶臼が1点出土している。虎口階段埋土中より出土したものは、花崗岩製の⁶⁰上臼で、推径は約33cm、高さ約9cmで8分画とされている。ふちはほとんど欠けているが、供給口と芯棒受けの半分がのこっている。供給口は隅丸の長方形をしている。前にもみたように、県内および周辺の花崗岩製石臼で、長方形の供給口をもつものは、今のと

ころ曲谷臼しかない。この資料が曲谷臼である可能性は高い。時代は安土時代とされている。他の上臼も花崗岩製であるが、全て供給口の丸いタイプのものであった。また、挽き手溝がのこっているものがあり、たが締め式のものであろう^{6.1}。

8. 久徳家墓地遺跡（栗太郡栗東町下鈎乙）^{きゅうとくけぼちいせき りつとうちようしもまがりおつ}

元禄十一年（1698）銘の墓石をもつ近世墓で、犬上郡多賀町久徳を本拠とした土豪久徳氏の一支流が栗太郡鈎へ移住・定着し氏寺にしたという。昭和五九年度の調査で、墓墳より70cm下の土壌から直径約27.5cmの下臼片が発見された。^{6.2}

9. 坂本城跡（大津市下坂本町）

元亀二年（1571）比叡山焼き討ち以降に、信長の命によって明智光秀が築城し、本能寺の変後焼亡するが、羽柴秀吉政権下で再建された。その後、天正十四年（1586）の大津城移転に伴い廃城となった。昭和五四年度に調査おこなわれ、安土桃山時代の多量の遺物と礎石建物・掘立柱建物・石垣・井戸・石組の溝などが検出された。石臼は3点出土している。^{6.3} うち茶臼が1点あり、粒子の細かい石材の2分の1の下臼片である。臼面は8分画で直径は約16cmを測る。^{6.4} 天目茶碗や青白磁碗などとともに出土しており、茶の湯がおこなわれていたのであろう。

10. 新庄城遺跡（高島郡新旭町新庄）

新庄城は高島越中守の居城「清水山城」の出城として、1500年頃に築かれたと考えられている。おそらく高島氏の有力家臣が在城していたと思われる。その後、天正元年（1573）に織田信長が家臣磯野員昌に与え、新庄城において高島郡内の支配を命じている。その後、天正六年（1578）に郡内支配の本拠が高島町大溝城へ移されるまでつづいた。昭和五七・五八年度に発掘調査がおこなわれ、直径1尺で8分画の花崗岩製上臼と下臼。直径6寸で8分画のものと直径5寸で8分画の茶臼破片の計4点が出土している。^{6.5} これらの茶臼とともに、茶道具ともとらえられる瓦質土器の風炉や天目茶碗、信楽の壺が出土しており、茶が武士階級の中に定着していることを物語っている。^{6.6}

まとめと課題 さて、県内の遺跡に石臼が普及しはじめたのはいつごろだろう。

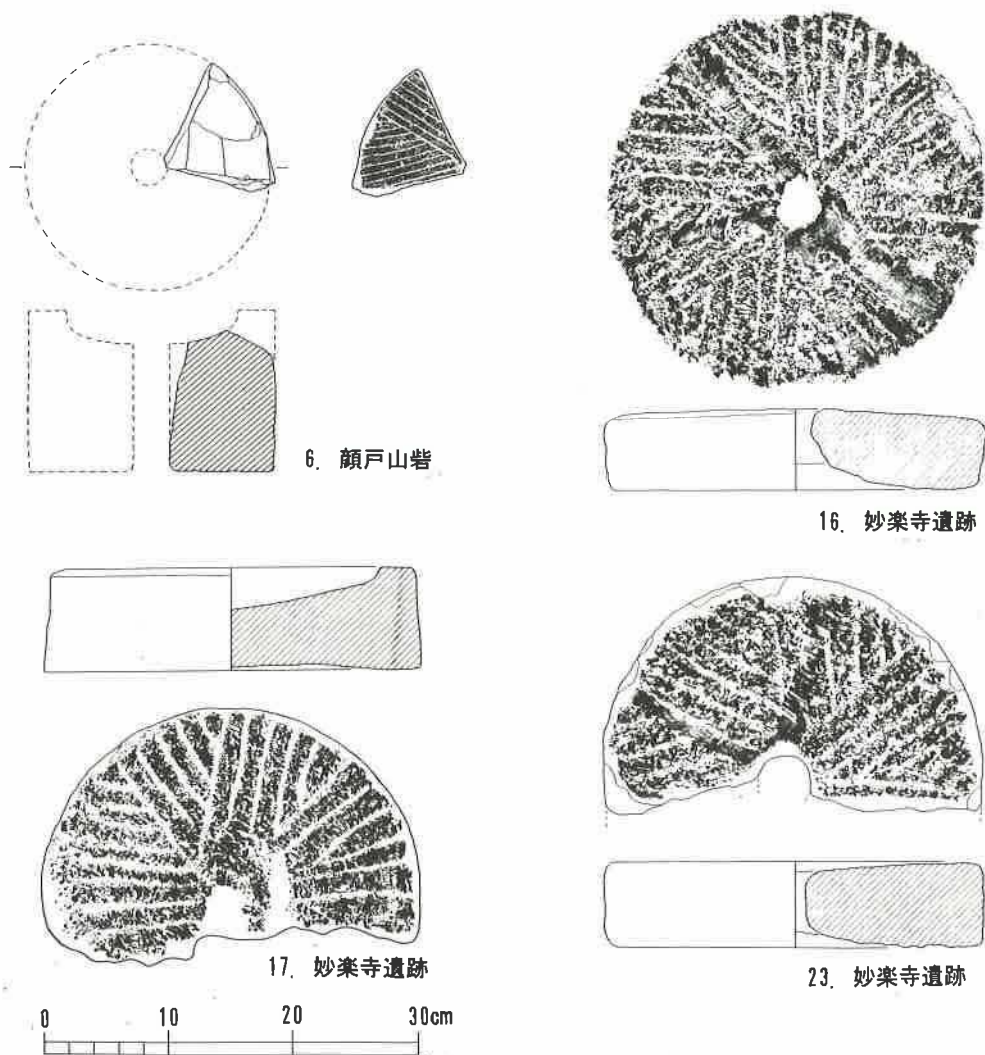
上記の11遺跡の中で、小谷城・安土城・坂本城・新庄城・敏満寺は、文献から築城や廃城の年代がわかる。小谷城の大永四年（1524）築城を除けば、他の4城は1570年代の築城である（新庄城は磯野時代とした）。廃城は、小谷城が天正三年（1576）、新庄城が六年（1578）、安土城が十年（1582）、坂本城が十四年（1586）である。また、妙楽寺遺跡では、すでに16世紀末頃（1570年代）に集落としての機能を停止している。これらのことから、近江においては、おそくとも1570年代には、城館や寺院、あるいは勢力をもった村落

等の中で石臼が普及していたことがわかる。

ただし、観音寺城のように南北朝期から守護所として成立していた城館から出土した茶臼などは、早い時期に輸入品として持ち込まれた可能性を考えなければいけないだろう。

今回、各出土遺物を直接詳細に観察しなかったために、石材やその質など重要な要素をみのがしている。今後、引き続き検討していきたいと考えている。さらに、曲谷のような生産地の調査も必要である。それらを改めて編集しなおすことによって、今後の検索に役立て、出土石臼の年代・産地・流通などの把握が可能となるのではないだろうか。大方のご教示、ご叱正を乞うものである。

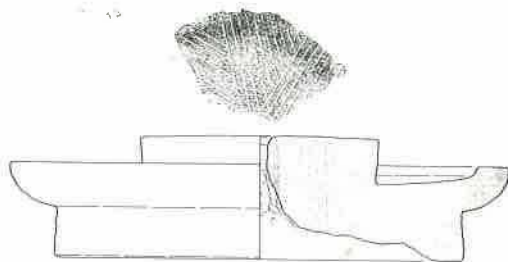
(高橋順之)



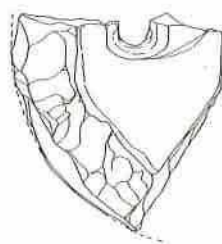
第41図 出土遺物実測図 (No.は表9に対応)



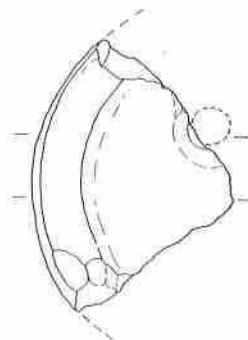
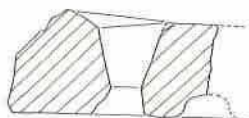
26. 敏満寺遺跡



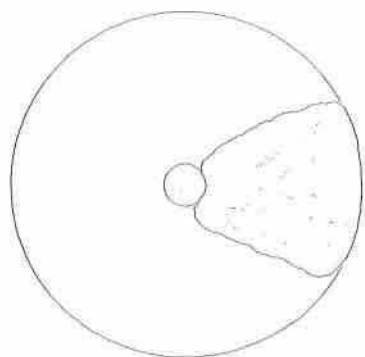
27. 敏満寺遺跡



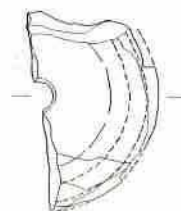
32. 安土城跡



36. 安土城跡



40. 久徳家墓地遺跡



45. 新庄城遺跡



第42図 出土遺物実測図

(6. 36 以外は各報告書より転載)

表 9 滋賀県内における出土石臼一覧表

No.	遺 跡 名	所在地	種 別	石 質	備 考
1	小 谷 城 跡	浅井町	石臼	花崗岩	上臼 直径340■ 高さ100■ 大広間跡出土
2	小 谷 城 跡	浅井町	石臼	花崗岩	桜馬場下出土
3	小 谷 城 跡	浅井町	石臼	花崗岩	上臼 1/3 京極丸跡出土 直径312■ 高92■
4	小 谷 城 跡	浅井町	石臼	花崗岩	下臼 1/3 直径368■ 高90■ 馬洗池出土
5	宝 持 坊 遺 跡	山東町	石臼	花崗岩	T1出土
6	顔 戸 山 砦 遺 跡	近江町	茶臼		上臼 直径200■
7	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	昭和60年度
8	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
9	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
10	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
11	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
12	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
13	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
14	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	"
15	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	茶臼	粒子の密な花崗岩	昭和62年度以下同じ 小片 高台風脚台 室町前半 B402
16	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	下臼 直径300■ 高65■ 8分画5~6条 B203
17	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	上臼 1/2欠 直径300■ 端部高80■ 中心高45■ 8分画3~8条 B204
18	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	上臼 1/2以上欠 直径348■ 端部高122■ 中心高85■ 室町前半 B403
19	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	上臼 1/2以上欠 直径350■ 端部高95■ 中 心高50■ (6分画)8~9条 室町後半 B501
20	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	上臼 2/3以上欠 直径276■以上 端部高84■ 中心高40■ 6条前後 室町後半 B516
21	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	下臼 1/2欠 直径320■ 高59■ 8~9条 室町後半 B527
22	妙 楽 寺 遺 跡	彦根市	石臼	花崗岩	上臼 3/4欠 中心高44■ 室町後半 B528

23	妙楽寺遺跡	彦根市	石臼	花崗岩	下白 1/2欠 直径300■ 高68■ (8分画) 6~7条 室町後半 B529
24	妙楽寺遺跡	彦根市	石臼	花崗岩	上白 1/4残 端部高84■ 中心20■ 室町後半 B529
25	妙楽寺遺跡	彦根市	石臼		下白 1/2欠 直径260■以上 高95■ B903 室町後半
26	敏満寺遺跡	多賀町	石臼	花崗岩	下白 2/3欠 直径300■ 高90■ 室町中期
27	敏満寺遺跡	多賀町	茶臼	(安山岩)	下白 2/3欠 白面直径192■ 高96■ "
28	島川遺跡	秦荘町	石臼		上白 3/4以上欠
29	観音寺城跡	安土町	石臼	安山岩	上白 2/3欠 直径300■ 本丸屋敷跡出土
30	観音寺城跡	安土町	茶臼	安山岩	下白 2/3欠 白面直径176■ 本丸屋敷跡出土
31	観音寺城跡	安土町	石臼		池田丸屋敷跡出土
32	安土城跡	安土町	石臼	花崗岩	上白 直径約330■ 高90■ 8分画8~9条 伝羽柴秀吉邸跡B地区虎口階段埋土出土 平成元年
33	安土城 ^{6,7} 跡	安土町	石臼	花崗岩	上白 伝羽柴秀吉邸跡B地区裏虎口階段埋土出土 平元
35	安土城跡	安土町	石臼	花崗岩	上下不明 伝羽柴秀吉邸跡C地区サブトレンチ 平元
36	安土城跡	安土町	石臼	花崗岩	上白 直径約310■ 高90■ 伝羽柴秀吉邸跡櫓門 前側溝 平成2年
37	安土城跡	安土町	石臼	花崗岩	上白 直径290■ 高120■ 8分画
38	安土城跡	安土町	石臼	花崗岩	上白 直径約312■ 高90■ 平成5年
39	安土城跡	安土町	茶臼		下白 白面直径192■ 高台直径336■ 平成5年
40	久徳家墓地遺跡	栗東町	石臼	(花崗岩)	下白 4/5欠 江戸期?
41	坂本城跡	大津市	茶臼	安山岩	下白 1/2欠 (白面直径約160■) (高 約100■) 高台風脚台 8分画18条前後
41	坂本城跡	大津市	(石臼)		
42	坂本城跡	大津市	(石臼)		
43	新庄城遺跡	新旭町	石臼	花崗岩	上白 直径300■ 8分画
44	新庄城遺跡	新旭町	石臼	花崗岩	下白 直径300■ 8分画
45	新庄城遺跡	新旭町	茶臼		上白 直径180■ 8分画18条前後
46	新庄城遺跡	新旭町	茶臼		直径150■ 18条前後

〈註〉

(第1章)

- 1 三輪茂雄 1978 『石臼探訪』産業技術センター
- 2 拙稿 1993 『起し又遺跡発掘調査報告書』伊吹町教育委員会
- 3 三輪茂雄 1975 『石臼の謎』産業技術センター
1975 「近江曲谷臼を訪ねて」(『民俗文化』145)
1977 「近江曲谷臼産地調査報告」(『民俗文化』169)
1977 「粉碎機の元祖 西仏房—滋賀県曲谷遺跡第2次調査」(『粉体と工業』9-7)
1978 「西仏坊伝承について」(『民俗文化』173)
1978 『石臼探訪』産業技術センター

(第2章)

- 4 拙稿 1992 『伊吹町内遺跡分布調査報告書』伊吹町教育委員会
- 5 三輪氏のご教示による
- 6 伊吹町史編さん委員会編 1992 『伊吹町史 自然編』伊吹町
- 7 拙稿 1992
- 8 木村至宏他編 1991 『滋賀県の地名』(日本歴史地名大系25)平凡社
- 9 小林健太郎 1974 「滋賀県姉川上流山村における生活圏の変化」(『滋賀大紀要』24)
- 10 三輪 1978
- 11 田岡香逸 1969 「近江湖北・湖東の石造美術(2)」(『民俗文化』70)
- 12 平成3年度の町内遺跡分布調査で兼康保明氏に多くご教示いただいた
- 13 桐原健 1993 「信濃中世末における石臼の所有者」(『信濃』45-4)
- 14 三輪 1975
- 15 田中美津子 1990 「ルポ山の村から湖畔から」(『湖国と文化』52)

(第3章)

- 16 三輪 1978 『臼』(ものと人間の文化史25)法政大学出版局
- 17 三輪 1975 『石臼の謎』
- 18 三輪 1975 『石臼の謎』、北村誠一・段上達雄・富田清子 1986 『佐渡の石臼』(民族文化双書4)未来社
- 19 同上、三輪 1975 『石臼の謎』
- 20 同上、三輪 1975 『石臼の謎』
- 21 三輪 1978 『石臼探訪』
- 22 北村他 1986
- 23 三輪 1975 『石臼の謎』
- 24 磯貝勇 1962 「石屋」(『日本民俗学大系』5 平凡社)
- 25 段上達雄 1982 「讃岐庵治の石工道具」(『中国・四国地方の民具』明玄書房)
- 26 段上達雄 1983 『国東半島の石工1』(大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第1集)
同上 1984 『国東半島の石工2』(同上第2集)

- 27 北島俊朗他 1987 『金沢の石切り緊急調査報告書』（金沢市文化財紀要65）金沢市教育委員会
- 28 松田国雄 1982 「周防久賀の石垣積みと用具」（『中国・四国地方の民具』 明玄書房）
- 29 北村 1986
- 30 磯貝 1962 等
- 31 段上 1982
- 32 秋田裕毅編 1988 『史跡小谷城－浅井三代の城郭と城下町』湖北町教育委員会・小谷城址保勝会
- 33 中村林一編 1976 『史跡小谷城跡環境整備事業報告書』湖北町教育委員会
- 34 略測図ならびに写真を三輪茂雄氏に見ていただいた
- 35 不破幹雄 1980 『垂井町指定史跡菩提山城遺跡測量調査報告書』垂井町教育委員会
- 36 三輪 1978 『石臼探訪』
（第4章）
- 37 中村編 1976
- 38 三輪 1978 『石臼探訪』
- 39 近江八幡市教育委員会・近江八幡市立郷土資料館 1985 『石工文書解説書』
江南洋 1988 「石工文書」（『滋賀考古学論叢』4）
- 40 河内美代子氏にご教示いただいた。
- 41 岩崎二郎・田中晋作 1988 『ミノバ石切場跡発掘調査報告書』（（財）大阪府埋蔵文化財協会調査
報告書18）（財）大阪府埋蔵文化財協会
- 42 春日村史編纂委員会編 1983 『春日村史』上巻 春日村
（付章）
- 43 桐原 1993
- 44 三輪 1978 『臼』
- 45 大安町教育委員会 1993 『大安町史 2巻』
- 46 三輪 1978 『臼』
- 47 現地調査に際して、兼康保明氏にご教示いただいた。
- 48 三輪 1975 『石臼の謎』
- 49 同上
- 50 同上
- 51 三輪 1978 『石臼探訪』
岐阜県揖斐郡内の石臼については高橋俊示氏に、多くご教示いただいた。
- 52 長谷川嘉和編 1989 『滋賀県の諸職－滋賀県諸職関係民俗文化財調査報告書－』滋賀県教育委員
会
- 53 中井均 1988 「敏満寺遺跡の防御的施設の評価～寺院と城郭の関わりを中心として～」 （『敏満
寺遺跡発掘調査報告書』）滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会
- 54 岩間信幸編 1987 『宝持坊遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会
- 55 近江町教育委員会のご好意で遺物の写真撮影・実測をさせていただいた。
- 56 一般民衆に石臼が普及するのは江戸時代中期前後といわれている。
- 57 伊庭功 1985 『妙楽寺遺跡Ⅲ』滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会

葛野泰樹・稲垣正宏・三宅弘 1989 『妙楽寺遺跡Ⅱ』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

58 横田洋三編 1988 『敏満寺遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

59 林定信 1986 『島川遺跡発掘調査概要報告書』秦荘町教育委員会

60 丸山竜平 1971 『観音寺城跡整備調査報告書』滋賀県教育委員会

61 葛野泰樹・木戸雅寿 1991 『特別史跡安土城跡発掘調査報告Ⅰ－伝羽柴秀吉邸跡』

滋賀県教育委員会

未報告のものについても、安土城郭調査研究所の木戸雅寿氏・小竹森直子氏・勝見孝彦氏のご好意で実見させていただいた。数値はこの時の計測値である。

62 造酒豊 1986 『栗東町久徳家墓地遺跡発掘調査報告書』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

63 吉水真彦 1979 「近江坂本城跡の発掘調査〈速報〉」(『滋賀文化財だより』33)

64 大津市歴史博物館で実見した。

65 清水尚編 1991 『新庄城遺跡』滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会

66 兼康保明 1988 「出土遺物に見る茶道具とその評価－近江の中世遺跡を例として」
(『滋賀考古学論叢』4)

67 安土城出土品は、高橋が計測した数値であり、後日、報告書が刊行のでそちらを参照してほしい。

〈参考文献〉

その他、石切場の調査として、滑石製石鍋製作場跡に関する下記の文献がある

- ・ 正林護編 1980 『大瀬戸町石鍋製作所遺跡』(大瀬戸町文化財調査報告書 1)
- ・ 乗安和二三・大村秀典 1987 『下請川南遺跡』(山口県埋蔵文化財調査報告104)

宇部市土地開発公社・山口県教育委員会